

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201109		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル音明かり・詩明かり(音明かり)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村裏西46-1		
自己評価作成日	平成29年8月20日	評価結果市町村受理日	平成29年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2372201109-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ敷地内に小規模多機能型、他3ユニットはグループホームとなっている。田園風景の中の一部にあり、季節を肌で感じながら日々の生活を過ごしている。散歩等を通して、地域の方との触れ合う時間も多し。近年は、年々歳を重ねる重篤化傾向にあるが、グループホームらしさを忘れず、自立支援を行いつつ、身体介護・精神ケア・看取りケアと課題も増えているように感じる。利用者同士の助け合う姿や、生き活きとした表情で笑顔の絶えないユニット。「長生きして良かった。此処にきて良かった。」と、利用者間の会話から聞こえてくるのが何よりもうれしい。利用者様・ご家族様・職員の信頼関係も深く、満足感のある暮らしのサポートを目指している。また、一般の地域高齢者の相談や、包括支援センターとの連携は、日中・夜間を問わず、緊急対応等を引き受けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来、地域の方との交流の機会をつくる取り組みが行われており、関連事業所と合同で開催している行事の際には、多くの地域の方の参加が得られており、地域の方にホームを知ってもらえる機会につながっている。家族との関係づくりについても、毎年秋に行っている関連事業所との「チアフル運動会」の際には、多くの方の参加と協力が得られており、利用者と家族との交流の機会をつくりながら、利用者が重篤になっても一緒に過ごしてもらえるような働きかけにもつながっている。職員研修についても、職員の段階に合わせてクラス分けを行うことで、職員一人ひとりに合わせた資質向上に向けた取り組みが行われている。また、日常の支援については、日常的にユニットリーダーを中心に職員間で検討を深めながら、利用者一人ひとりの意向に合わせた生活の実現を目指した取り組みが行われてい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送り時や、毎月のユニットミーティングには必ず全員で復唱行い実践し、一日を振り返り理念に繋げている。	関連事業所と共通の「生きているってすてき」をホームの理念としており、利用者がホームでの生活を楽しんでもらうことを目指した支援に取り組んでいる。また、職員間でユニット毎に目標を考えており、ユニット内への掲示と理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	春祭り・運動会などで交流図り、気軽に訪問して頂ける様、散歩時にも挨拶や会話しながらを大切にしている。	開設以来、地域の方との関係づくりに取り組んでおり、ホームで開催している春祭り等の際には、地域の方にも案内を行っており、参加が得られている。また、地域の文化祭にホームから作品を出品する等、協力関係に取り組んでいる。	関連事業所とも連携しながら、地域の方へ相談会の実施等、ホームで実現可能な地域貢献活動を検討している。実際に、地域に住んでいる方への支援につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域推進会議・家族会・チアフル新聞・インターネットにて日常の活動や状況を伝えている。イベントには招待し認知症への理解や支援の方法活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎月の健康状態や活動・目標など報告行い質問に対する確に答え指摘受けたことは、活かせる様話合っている。	会議の際には、利用者の生活状況が分かる資料を作成しており、ホームへの理解を深めてもらっている。また、複数の地域の方の参加が得られていることで、地域に関する情報交換にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	主に管理者が携わっている。	市内の介護事業所が集まる連絡会の際には、職員が出席しており、情報交換等の機会をつくっている。また、地域包括支援センターが行っている連絡会にも参加しており、情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修に取り入れ理解している。やむをえない時は管理者を含め、ミーティング開き家族様の承諾を頂く。行動制限せず見守り安全確保している。	両ユニットが平面でつながっていることで、利用者が自由に移動可能な構造となっており、ユニット間での連携した見守りが行われている。また、関連事業所とも連携しながら職員研修が行われており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	拘束同様内部研修やユニットミーティングにおいて、虐待防止に努めている。介助抱えこまず、協力し合い自分自身にゆとりを持つ様心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在利用者様には見えないが、ユニット内で制度について勉強の機会を頂き活用できる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が詳しく説明を行い、納得、理解され安心して利用して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置し活用している。また、家族会・面会においても意見要望伺い、運営向上につなげている。	家族との交流については、ユニット毎に考えており、各ユニットのリーダーで対応している。関連事業所と合同の行事を通じてアンケートを実施しており、要望等の把握につなげている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット内のミーティングであがった意見を、リーダーミーティングでリーダーが発言したり、半年に一度の管理者面談で提案発言している。	職員からの意見等については、毎月のユニット会議で話し合い、各ユニットのリーダーで把握しながら管理者に報告され、ホームの運営につなげている。また、管理者による職員個別の面談が行われており、職員の把握に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己評価・リーダー評価・勉強会参加でキャリアパス金額決めている。面談時、環境や体調面気遣って下さっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修はレベルに合わせグループを分け、わかりやすく指導して頂いている。また、個別にて時間をさいて質問に丁寧に答えて下さる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修や交流会において、情報交換したことをリーダーへ、職員へと申し送られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご家族様からの情報をもとに、会話から本人様の思いを聞き関係を深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者・リーダーで面談行い、ご家族様の思いを受け止め、心を開き信頼を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	情報と本人様観察し「今」何を必要としているか探り、話し合い満足して頂ける様対応行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活において、残されている機能が発揮できる様、見守り行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の思いを伝え、家族様とコミュニケーションが図れる様仲介し、安心して頂ける様関係作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽に訪ねて頂ける様、明るく振舞い次回へと繋げている。	利用者の入居前からの関係は徐々に困難になっているが、利用者により、友人、知人がホームに訪問したり、行きつけの美容院を継続する等の交流が行われている。また、利用者の中には、時には自宅に戻り家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや役割づくり、食事などでコミュニケーションを図り、孤立者が出ない様心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居や看取り後など、ご家族様とリーダーの関係深く、春祭り・運動会などボランティアに参加して下さり交流してみえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	集団生活において、困難な要望には十分話し合い出来る限り思いに近づける様努力している。	職員間で利用者を担当しながら、利用者毎に毎月の状況をまとめる取り組みが行われており、意向等の把握にもつなげている。毎月のユニット会議の際には、利用者全員に関するカンファレンスを実施しており、利用者に関する検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様からのアセスメントを収集し職員同士理解している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日、体調・精神面の安定を確認し、本人様の出来る事の維持に努め、本人らしい生活が遅れる様見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の申し送り、毎月のミーティング、その時の状態を取りあげ、どんなことが適しているか話し合いプランを立てている。	介護計画は6か月で見直しが行われているが、モニタリングは毎月行われている。また、毎日の生活記録用紙に介護計画の内容を転記する工夫が行われてあり、職員による日常の支援を通じて、介護計画の内容の把握とチェックが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や変化、注意点は赤字でプランに沿った支援など細かく記録に残し、話し合い見直し行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況・状態に応じて、十分に話し合い、他施設への見直しも考えながら、話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	習字・コーラス・手芸・民謡・大正琴・フラメンコ等ボランティアの協力を頂き活動を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ホームドクターはあるが、希望の掛かりつけ医を確認している。原則として、ご家族様に受診して頂いているが、緊急時や困難な場合は支援している。	協力医の訪問の際には、ホーム看護師との情報交換が行われている。受診支援等の対応も行われており、医療面での支援につなげている。管理者は看護師でもあるため、利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応が可能で体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師による看護師(月2回)現状報告を行っている。看護師勤務外でも、連絡・相談・指示仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームドクターに紹介状頂き、適切な治療・ワーカーと連絡取り情報交換し連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師・看護師・リーダー・ご家族・管理者と十分に話し合い方針を検討し、チーム団結し後悔ない支援を行っている。	ホームでは、利用者の身体状態に合わせた話し合いや協力医との情報交換等を重ねながら、ホームでの看取り支援が行われている。また、ホームで勉強会等の取り組みも行われており、職員が柔軟に対応できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応に備えマニュアル設置している。内部研修に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	3ヶ月に一度、防災訓練を行っている。地域の方にも応援お願いしている。	ホームでは、避難訓練をユニット毎に実施しており、回数は年4回行われている。各ユニットの状況にも合わせながら、備蓄品の確保が行われている。また、運営推進会議等を通じて、地域の方との協力関係にも取り組んでいる。	避難訓練についてはユニット毎に実施しているが、両ユニットの連携を深める取り組み等、ホームの継続した取り組みに期待したい。また、水害を想定した対応を通じて、関連事業所との連携にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人様の尊厳を大切にし、傷つけない様プライバシーを守り、声掛けにも気を付けている。・・・行き過ぎた言動には他の職員と交代し、利用者が安心して過ごせる様支援行っている。	法人の基本理念に基づく「基本指針」をつっており、職員間で文言を唱和をする機会をつくりながら、職員による対応を振り返るように取り組んでいる。また、関連事業所との合同で接遇マナーに関する研修の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話の中に本人様の思いや希望を取り入れ、発言できる様導いている。自己決定を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ペースはあるが、本人様らしさを大切にし、一日を大切にし、有意義に過ごせる様見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	二か月に一度、移動美容院に来て頂いている。季節に合った服装選びの支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用様の出来る範囲で手伝って頂き、個々の残存機能を活かし取り組んでいる。が、配膳・下膳も困難になっている方増えているため、腰かけて手伝って頂いている。	メニューについてはユニット毎に考えており、利用者の希望や好み等を確認しながらつられている。買い物、調理、片付け等、利用者もできることに参加した取り組みが行われている。また、食事の際には、職員もテーブル囲んで一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量をつけ、一日の必要量を確認している。体調に合わせ量や、形体・調理の工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後実施している。夜はポリドントで洗浄・消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、個々に定期的に声掛け誘導介助を行っている。	利用者一人ひとりの排泄時間や排泄の間隔等の状態が分かるように記録を残しており、職員間でその方に合わせた声掛け等の検討が行われている。また、医療面での支援も深めながら、利用者により、布パンツで過ごしている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量の調整や野菜を多く取り入れ、運動し自然排便心掛けている。できる限り、薬に頼らない様になっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴を楽しめる様に職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに個々にそった支援している。	ゆったりと入浴できるよう心掛けている。…入浴日は決まっているが、希望があれば、自由に入浴できるようになっている。	入浴は1日おきの午後の時間に行われている。利用者の身体状態に合わせた、職員複数での介助も行われている。また、入浴剤を入れたり、季節に合わせた入浴等、利用者が入浴を楽しめる取り組みが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	天気に良い日は、布団干しやシーツ交換で快適に眠れる様支援している。…お昼寝自由に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の持病を理解し、薬剤情報確認を行っている。服用後、異変見られたら、看護師に報告指示うける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々に合わせ、興味・特技を引出し楽しめる様支援している。…役割自主的に行って下さる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族様の協力により外出し、本人様の思いに寄り添っている。…全利用者、高齢に伴う筋力低下が原因で屋外車椅子介助外出困難、職員の人員不足もあり、要望に応えることが出来ていない。	日常的にホーム周辺への散歩や近隣にある神社に出かけたり、買い物に出かける取り組みが行われている。また、毎月の外出行事が計画されており、ユニット毎に外出先を考えながら、様々な場所への外出行事が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人で管理している方も見えるが、家族様の希望で職員管理、希望があれば買い物支援行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	基本的に電話申し出があれば、自由に使用できる様になっている。・携帯電話持ち込み可としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じられるよう作品の展示や、ご家族様により生け花提供して下さる。・壁掛け作成をレクリエーションに取り入れ、次の月のカレンダー等手作りし展示している。	ユニットにより開設の時期が異なっているが、南を向いた大きな窓は共通しており、利用者は日中を明るい雰囲気でも過ごすことができる。定期的に飾り付けを入れ替える等、季節感にも配慮している。また、利用者の作品の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由に自室で過ごされたり、フロアで他者とテレビ観たり、会話したり、くつろがれたり、それぞれに居場所見つけられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅と思えるように、置き物や写真を飾り、安心して過ごせる様、工夫されて見える。	居室については、様々な家具類や身のまわりの物の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の方もおり、利用者に合わせて居室づくりが行われている。また、家族の写真や自身の作品を飾る等、雰囲気づくりも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロア・トイレ・脱衣所・浴室と手すり付け、安全確保している。		